

横芝光町の

町長 あいさつ

横芝光町長 佐藤 晴彦

平成18年3月27日、山武郡横芝町と匝瑳郡光町が郡域を越えて合併し、新生「横芝光町」が誕生し、まもなく一周年を迎えようとしております。

この合併を成就させるにあたり多大なるご尽力を賜りました関係者の皆様方、そして温かいご理解と絶大なるご支援を賜りました町民の皆様方に改めて深く感謝申し上げます。

新町「横芝光町」は、人口2万6千600人、面積66・91km²を有し、町の中央部から南部にかけては、平坦地で白砂青松の続く九十九里浜に面しており、北部は緑豊かな丘陵地を形成し、かつては上総と下総の国の国境であった九十九里平野最大の河川「栗山川」が、町の中央を流れるすばらしい自然環境に恵まれています。

今後は、この自然と調和する暮らしに根付いた文化が人と人をつなぎ、人々の活動を彩るまちをめざし、「栗山川の流れがはぐくむ人・自然・文化が共生する

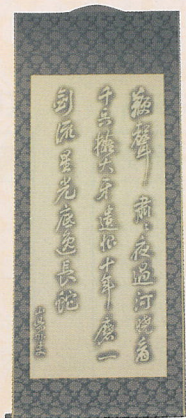


まち」を新町の将来像とし、その実現をめざして町民一丸となつて新しいまちづくりを進めてまいります。

そして、町民の皆様にも、「合併してよかった」と実感していただけるよう、町民の幸せのために、全力を傾注してまいりたい所存でありますので、町民の皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

長野県千曲市、山口県光市から記念品が寄贈

姉妹都市、友好交流を締結した長野県千曲市から「掛け軸」が、山口県光市から「陶板」が寄贈されました。



武田・上杉両雄が戦った川中島合戦の際、上杉軍が千曲川を渡った場所を示す石碑「雨宮の渡し」の拓本であり、この碑は、儒学者「頼山陽」の「鞭声肅肅……：」という「川中島の合戦」を詠んだ漢詩です。



横芝光町・光市の共通イメージである「海」をモチーフとし、今後の友好交流の発展と、お互いのまちのさらなる飛躍を願い製作されたものです。

製作者「道宝窯(どうほうがま)」
河野勝彦氏(山口県光市束荷在住)